

## 令和7年度通常総会

開催日：令和7年9月16日

場 所：高知県立高知青少年の家

○中嶋会長 どうもこんにちは。会長をやらせていただいてます、中嶋です。よろしくお願いします。

本当に暑い中、本格的に作業され始めてる方も多いと思いますが、熱中症にはぜひお気をつけてください。

この小規模林業推進協議会、高知県が事務局で始めた、非常に全国的にも特徴のある展開ですが、10年が経過しました。

自分は、高知県の展開とは別途、全国的な展開で、自伐型林業の普及を展開している自伐型林業推進協議会を立ち上げて、もう11年たったんですが、そっちは人がかなり増えてまして、全国的に言うと数千人がやってます。

その先頭を高知県が切るつもりだったんですけど、実際はそうなってなくて、全国的に言うと人が増えている市町村は補助制度をつくってまして、みんな作業道補助は2,000円以上、ほとんど市町村から出てるんです。そういう市町村が全国でどんどん今増えています。

その中でも、高知県佐川町は一番早く高知県ではやり始めてて、基本的なシステムは、県が半分出して、市町村が半分出してくれる制度になっております。

当時は、市町村を促すのにはちょうどいいのではないかといろいろ考えてたんですが、なかなか高知県で市町村がセットになってやってくれない状況です。

今、それを対応してくれているのが佐川町で、西の方では宿毛市がそうです。少ないですけど日高村、安芸市、それから補助金だけ何とかあるのが仁淀川町といの町という状況です。

いろいろヒアリングしてみると、その状況、県の補助制度だけでやってみると、時給単価らに落としてみると、最低賃金より低いということで、なかなか年間、何ヘクタールもやるような状況にならずに、ボランティアチックに展開するしかないという意見が複数の方から寄せられて、そこを何とかしてくれと言われてるんですが、それは常に県には要望を上げてます。

今、林業従事者はずっと減ってます。その中で高知県は、横ばいだったんです。これ

は割とよかつたわけですが、ここへ来て減りぎみになると聞いています。この林業従事者をもう一度増やそうとすると、この取組を拡充しないといけません。

実際に、10年前は1人、2人しかいなかつた佐川町では30人以上になっています。やはり大きな予算規模を持つ県で、作業道の補助をメートル2,000円にしていくのを、もっと声を上げて、皆さんからもぜひ言っていただきたいと思います。

高知県は10年ぐらい前から皆伐政策に変わってますが、最近、豪雨が激しくなってきており、全国で土砂災害を引き起こしてるのは、林業の影響もあると思います。

それから、一気に皆伐すると、なかなか再造林に手が回らなくなってしまいます。

だから、我々の林業は皆伐せずに、これを今後、50年から100年、生産林として維持し続ける林業、これを目指しています。県にこっちだけの林業政策をして欲しいと言つてはなくて、両方をちゃんとサポートする形にして欲しいと思います。

設立から10年たった今、もう一度、そこを皆さんにもいろいろ考えてもらいたいし、県にもいろいろ検討していただきたいということで、冒頭でそういう話をさせてもらいました。

最初の3年間、いつもここでやったり、ここではないところもあったんですけど、いつも100人以上来て、すごい会だったんですけど、今、30人、40人ぐらいの人に落ち着いてきています。けど、もう一遍盛り返していくと私は思っていますので、いろいろ御協力をいただければありがたいと思います。

この後、意見交換もありますので、何か思ってる方がいたら、ぜひその場でいろいろ御意見いただければと思いますので、今日はよろしくお願ひします。

どうもありがとうございました。